電事連会長定例記者会見発言要旨
（2005 年 5 月 20 日）

◎　電気事業連合会会長の勝俣でございます。

１．はじめに

◎　本日は、電事連会長として初めての会見でありますとともに、東京電力社長としての当番会見でもあります。なにとぞよろしくお願いいたします。まず、電事連会長として、三つ申し上げたいと思います。

２．ＭＯＸ燃料加工施設の立地基本協定書調印について

◎　まず、先日のＭＯＸ燃料加工施設の立地基本協定についてです。去る 4 月 19 日に、青森県と六ヶ所村、そして日本原燃㈱の間で、協定書の締結が行われ、私も立会人として調印いたしました。

○　この施設は六ヶ所再処理工場で抽出されたプルトニウムをＭＯＸ燃料に加工し、国内で安全・確実に燃焼させるために必要なものであります。それだけに、このたびの協定書調印はわが国の原子燃料サイクルの確立に向けた、極めて大きな意義を持つ一歩であると重く受け止めております。三村知事、古川村長をはじめ、国、県、村ご当局の方々から多大なるご尽力とご協力をいただきますとともに、皆さまからご理解、ご支援を賜りましたことに、改めて心から感謝を申し上げる次第です。

○　今後も、私ども電気事業者は、国のエネルギー政策の基本方針に沿って、安全確保と品質保証を最優先とし、青森県、六ヶ所村をはじめ、広く皆さまのご理解とご協力を得ながら、日本原燃と一体となり、ＭＯＸ燃料加工施設の立地を含めて原子燃料サイクルの確立に向けさらなる努力を続けてまいる所存です。

○　あわせて、2010 年度までに合計 16～18 基のプラントでプルサーマルを導入することを目指して、不退転の決意で取り組んでまいります。

３．バックエンド積立金法の成立について

◎　次に、「原子力発電における使用済燃料の再処理等のための積立金の積立て及び管理に関する法律」、いわゆる「バックエンド積立金法」が、このたび成立したことについてお礼を申し上げたいと思います。（衆議院は 4 月 26 日、参議院は 5 月 13 日）

○　原子燃料サイクルの推進はわが国のエネルギー政策の根幹をなすものですが、電力小売自由化の拡大という大きな環境変化の中では、「原子力と自由化の両立」を図るための制度・措置を講ずることが必要であります。その実現のために、昨年 8 月、電気事業分科会において「バックエンド事業に対する制度・措置の在り方」という中間報告がまとめられました。

○　さらに、原子力委員会の新計画策定会議において、公開の場で延べ 45 時間にわたり、徹底的に、まさに「聖域のない議論」が重ねられた上で、昨年 11 月に、再処理路線の堅持が確認されました。

○　こうしたことを踏まえ、再処理等を適正に実施し、原子力に関わる環境の整備を目的としてバックエンド積立金法案が今国会に提出され、このたび、衆参両議院において、審議・可決いただいた次第です。

○　本法案の作成・審議・成立の各面でご尽力いただいた方々に心からお礼を申し上げますとともに、今後速やかに政省令の整備がなされることを希望いたしております。

４．サイクル施設の現状について

◎　また、改めて振り返りますと、昨年末に開始された日本原燃㈱六ヶ所再処理施設におけるウラン試験は、おかげさまでほぼ順調に進んでいます。さらに、日本原電さんと東京電力が協力して計画している青森県むつ市における中間貯蔵施設に関しまして、16 日に青森県議会の全員協議会で、19 日には青森県の市町村長会議、原子力政策懇話会でご審議をいただいております。

○　このように、原子燃料サイクルの確立に向けて、少しずつではありますが、全体の歯車が回り始め、一歩一歩着実に進んでいるという手応えを感じています。

○　ただ、こうして順調なときこそ油断は禁物です。私自身、先日（4 月 25 日）、六ヶ所のサイクル施設に赴き、現地の日本原燃社員に直接会って、安全確保などをテーマに懇談するとともに、協力会社の方々とも人材の育成や技術の向上などについてざっくばらんな意見交換をしました。皆さんが良い意味で緊張感を持ち続け、業務に真剣に取り組んでいる姿を見て、大変心強く感じた次第です。

○　今後もトップが先頭に立って品質保証に取り組み、安全確保を最優先とする方針のもとで、現場の社員一人ひとりが真剣に取り組むよう徹底し、協力会社との連携強化を図りながら、品質マネージメントを継続的に改善し、万全の品質保証体制を確立するよう努めてまいる所存です。

○　こうした活動を通じ、原子力立地地域の皆さまをはじめとする国民の皆さまからの信頼回復、原子力従事者のモラル向上と人材育成、ひいては原子燃料サイクルの確立に向けて、引き続き業界一丸となって取り組んでまいりたいと思います。

○　電事連会長としては以上です。引き続き、東京電力社長として、お話をさせていただきます。

（以下、東京電力社長として）

◎　ご案内のとおり、本年 2 月に京都議定書が発効し、去る 4 月 28 日にはその目標達成計画が閣議決定されるなど、わが国の地球温暖化対策への取り組みが本格化してまいりました。そこで、本日は、当社が進めている環境への取り組みについてご報告させていただきます。

１．2004 年度のCO_2排出実績

◎　はじめに、当社の 2004 年度のCO_2排出実績がまとまりましたのでご報告いたします。お手元の資料 1 をご覧ください。

○　2004 年度は、記録的な猛暑の影響などにより販売電力量が増加いたしましたが、原子力プラントが順次再稼働したことにより、原子力設備利用率が前年度の 26.3％から 61.7％へ上昇し、CO_2排出量は 1 億 920 万トンと、2003 年度に比べて約 1,800 万トン減少いたしました。これは、

一般家庭約 500 万世帯分の年間排出量に相当する量です。
　また、販売電力量１kWh あたりのCO_2排出量である、排出原単位も 0.381kg となり、前年度に比べて約 17%減少いたしました。

○　当社は「2010 年度のCO_2排出原単位を 1990 年度比で 20%削減する」という経営目標を掲げ、その達成に向けて全力で取り組んでおります。
　引き続き、原子力発電所の安全・安定運転を進めるとともに、自然エネルギーの導入、京都メカニズムの活用などを通じて、目標を達成できるよう最大限の努力を続けてまいります。

２．ＥＣＯサポートプランの取り組み状況

◎　地球温暖化対策は、国民一人ひとりの取り組みをはじめ、国をあげて推進すべき課題です。その意味で、私どもでは、先ほど申し上げました内容に加え、お客さまと一体となった取り組みも進めております。お手元の資料 2 をご覧ください。

○　当社は、昨年 7 月から、ご家庭やオフィスビル・店舗などでの省エネルギーとCO_2削減を支援する「ＥＣＯサポートプラン」を実施しております。
　これは、エネルギー効率が良く、CO_2削減効果が大きい高効率給湯機「エコキュート」を購入されたご家庭や、省エネルギーに取り組まれる中小オフィスビル等のお客さまに対して、当社がCO_2削減量に相当する額を「ＥＣＯサポートマネー」としてお支払いし、応援させていただくものです。同時に、当社はその同額を拠出して、森林保全活動に活用いたします。

○　資料の中ほどの表に示しましたように、平成 16 年度は、おかげさまで多くのお申し込みをいただき、11,421 トンのCO_2を削減することができました。これは、一般家庭約 3,000 世帯分の年間排出量に相当いたします。
　また、お客さまにお支払いする「ＥＣＯサポートマネー」は約 7,400 万円となり、当社はこれと同額を拠出して、本年 4 月に渡良瀬川源流の森林再生支援事業をお手伝いしたほか、引き続き森林保全活動に活用してまいります。
○　この取り組みは、おかげさまでお客さまからご好評をいただいており、排出量が大きく伸びている民生部門のCO_2排出量の削減や森林保全に役立つことから、当社ではさら

に２年間継続して実施することといたしました。17 年度は、家庭部門・業務部門あわせて 25,000 トン程度のCO_2の削減を目指してまいります。

３．尾瀬の植林ボランティア

○　なお、お手元の資料 2 に示しましたように、当社は、尾瀬の約 7 割にあたる土地を所有しており、貴重な美しい自然を守るため、約 40 年にわたり木道の整備や湿原の修復作業などに取り組んでまいりましたが、平成 9 年度からはボランティアの皆さまとともに、毎年、尾瀬戸倉山林のブナ植林活動を行っております。これまでに約 2 万本、4 ヘクタールの植林を実施しており、今年も来週 25 日から 27 日まで、280 名のボランティアの皆さまにご協力いただき、約 2,500 本のブナを植林いたします。

○　また、既にお知らせいたしましたが、木道の架替工事に伴い発生する古い木道については、紙の原材料として再利用しております。現在、パンフレットや名刺などに活用しており、私の名刺にもこのリサイクルペーパーを利用しております。

４．シャープペンシル用リサイクル芯

◎　最後に、火力発電所から出る使用済み部品をシャープペンシル用の芯の原料として再利用する、日本で初めての取り組みについてご報告いたします。お手許の資料 4 をご覧ください。

○　この使用済み部品は「発電機ブラシ」と呼ばれるもので、詳細は資料 2 ページ目の図の通りですが、電気を流しやすくするため、高い純度の黒鉛でできており、回転する軸に接触させて使用することから摩耗するため、定期的に交換する必要があります。

当社では、この使用済み発電機ブラシを再利用できないかと考え、トンボ鉛筆さんと共同で検討を重ねてまいりましたが、シャープペンシル用の芯として、何とか今年度中に商品化できる見通しとなりました。お手許にサンプルをお配りさせていただきましたのでご覧ください。

○　当社の火力発電所からは、年間約 300 キロの使用済みの発電機ブラシが発生いたしますが、これを全てリサイクル芯の原料とした場合には、2,400 万本（16 本入りで 150 万ケース）のシャープ芯を生産することが出来る見込みです。

○　以上、いろいろと申し上げましたが、当社は、地球環境問題への対応を経営の最重要課題のひとつと位置づけ、今後ともあらゆる面から取り組んでまいります。

○　長くなりましたが、本日、私からは以上です。

以　上